令和８年10月教育委員会定例会会議録

１　日　　時　　令和８年10月29日（木）　午後２時から

２　場　　所　　教育プラザ　大会議室

３　出席者

佐藤教育長　　１番委員　大谷教育委員　　２番委員　小林教育委員

４番委員　鈴木教育委員

（教育長及び委員以外の出席者）

宮下教育部長、五十嵐教育委員会事務局参事、笹川教育委員会事務局参事（教育総務課長）、小池教育総務課参事、岡教育総務課参事、大石統括栄養士長、廣川学校教育課長、加藤学校教育課参事、槙島地域クラブ活動推進室長、古川社会教育課長、加藤社会教育課参事、箕輪文化行政副課長、石田スポーツ推進課長、瀧口高田幼稚園長、熊木教育センター所長、田村高田城址公園オーレンプラザ館長、石田青少年健全育成センター所長、花岡歴史博物館長、笹川小林古径記念美術館副館長

事務局　東條教育総務課副課長、三輪教育総務課企画係長、横山教育総務課企画係主事

４　傍聴人　　０人

５　会議に付議した事件

その他報告１　牧中学校と雄志中学校の統合に向けた取組状況について

その他報告２　上越市教育コラボ2026 学び愛フェスタの実施について

その他報告３　第55回上越市美術展覧会の開催結果について

その他報告４　本長者原廃寺跡 現地見学会の開催結果について

その他報告５　歴史博物館特別展「楊洲周延－サムライ、浮世絵を描く－」の開催結果と次期企画展の開催について

その他報告６　第16回えちご・くびき野100㎞マラソンの開催結果について

教育長開会宣言　　午後２時

会議録署名委員の指名　　小林委員

教　育　長	それでは報告に入る。 その他報告１　牧中学校と雄志中学校の統合に向けた取組状況について、説明を求める。
教育総務課参事	最初に、統合に向けた取組についてご説明する。後援会に関しては既に必要な調整を完了している。通学方法については、今月、牧中学校の保護者の皆様への説明を終えたため、今後、12月８日の雄志中学校　学校説明会の折に検討・修正結果を説明する。また、安全指導を兼ねて、３学期には登校時の乗車体験を予定している。 両校の生徒の交流については、昨年度から継続的に実施していただいて

	いる。今年度 5 月には、雄志中学校の体育祭に牧中学校の生徒が参加したほか、学年単位での交流も着々と進めている。交流活動後の牧中学校生徒の感想では「雄志中学校の皆さんが温かい雰囲気で迎えてくれてうれしかった」といった安心の声も聞かれている。 　続いて、閉校にむけた取組についてご説明する。来月 11 月 14 日には、牧中学校閉校記念式典、記念発表、記念碑除幕式及び思い出を語る会を実施するほか、閉校記念事業の一環として、記念誌の発行を予定している。また、卒業生や地域の方々が牧中学校に関する思い出を懐かしみ、語り合う機会として、今年度 2 回にわたり「牧中学校　母校見学会」を開催したほか、生徒が考える「未来の牧区」について発表する機会も予定している。これは、11 月 21 日開催の学び愛フェスタにおいても展示を予定している。統合までの残りの期間についても、雄志中学校との一体感の醸成と円滑な移行に向けて、これまで以上に学校と連携しながら準備を進めていく。
教　育　長	報告について意見、質問を求める。
鈴　木　委　員	牧中学校の保護者から、統合によってＰＴＡがなくなることへの不安の声があった。現在のＰＴＡの状況を説明してほしい。
教育総務課参事	昨年度、雄志中学校の教頭を交え、牧小学校及び牧中学校のＰＴＡ関係者との意見交換を行った。雄志中学校ではＰＴＡ組織は設けていないが、保護者は学校運営協議会委員や学年代表として学校運営に関わっている。統合した直後であることから、来年度は現在の牧中学校及び牧小学校の保護者については、希望があった場合のみ保護者代表等になる形とすることで調整した。また、担任だけでなく教頭や養護教諭も相談窓口となることを学校説明会で周知する予定である。
小　林　委　員	生徒同士の交流が進んでいることは評価できる。牧中学校の特色ある総合学習や地域活動、雄志中学校のキャリア教育など、それぞれの学校の良さを生かした教育課程の編成を進めてほしい。また、安塚中学校と大島中学校の統合事例の知見も活用するとともに、教科同士での打ち合わせも厚く配慮してもらいたい。
教育総務課参事	各学校の特色や地域の活動を大切に継承できるよう、統合前から教育課程の編成を進めている。長期休業中を活用して教職員による協議を行っており、今後も各校の良さを取り入れた教育課程づくりや、地域素材を活用した教科指導の検討を進めていく。
教　育　長	続いて、その他報告 2　上越市教育コラボ 2026 学び愛フェスタの実施について、説明を求める。
教育総務課参事	昨年度に引き続き、「わくわくを未来へ」をテーマに上越市教育コラボ 2026 学び愛フェスタを開催する。体験イベントは、11 月 21 日土曜日 10 時から 15 時まで、パネル展示は、11 月 16 日月曜日正午から 21 日土曜日 15 時まで、高田城址公園オーレンプラザにて開催する。体験イベント及びパネル展示の詳細はチラシをご覧いただきたい。 　今年度は体験イベントとして上越教育大学と看護大学のサークルから新たに企画を提案いただいたほか、上越市立水族博物館うみがたりにご協力いただき、活魚車を利用した移動水族館も行う。また、例年別会場で実施していたプログラミング体験教室をオーレンプラザで実施する予定である。 　広報については、上越ケーブルテレビジョンの「地域まるっと生放送Ｊｕｍｐ」に牧中学校、上越科学館、妙高自然の家やうみがたりの協力のもと出演し、学び愛フェスタの周知を行う。また、資料のチラシを児童生徒に配付するほか、保育園等を通じた園児への配布、こどもセンターなどの

	施設へのチラシの設置、教育往来や広報上越にも記事を掲載している。今後も、報道機関への情報提供や市の公式ＳＮＳなどにより、市民への周知を図っていく。 教育コラボ 2026 学び愛フェスタを通じて、市民の皆様が生活の中にある主体的で豊かな学びに気付くとともに、「わくわくする学び」を広げるきっかけづくりの場となることを期待している。
教育長	報告について意見、質問を求める。 意見・質問なし
教育長	その他報告 3　第 55 回上越市美術展覧会の開催結果について、説明を求める。
社会教育課長	10 月 4 日から 12 日までの 9 日間、高田城址公園オーレンプラザ及びミュゼ雪小町を会場として開催し、日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸・グラフィックデザイン、書道及び写真の計 315 点を展示した。 来場者数は、オーレンプラザが 2,606 人、ミュゼ雪小町が 1,087 人であった。開催期間中には市展運営委員による作品解説を実施し、延べ 101 人が参加した。来場者からは作品内容や作品解説への評価があった一方、会場が分散していることを残念とする意見も寄せられた。 今後も多くの市民が美術や芸術に触れる機会を提供できるよう検討していきたい。
教育長	報告について意見、質問を求める。
小林委員	近年、出品点数や来場者数は減少傾向にある。今後さらに美術展への関心を高めるため、若い世代の参加や関心を高める取組を検討してほしい。静岡県三島市ではスマートフォンやタブレットを活用したデジタルアート部門を設けて若年層の参加を促進している事例がある。また、来場者投票や入賞者と来場者の対話の機会を設けることで関心を高める取組も参考になるのではないか。
社会教育課長	出品者数及び来場者数は概ね横ばいで推移しているが、若い世代の参加促進は課題として認識している。自由な表現の場の提供についても検討しており、デジタルアート部門については著作権やＡＩ生成作品の取扱いなど課題があるものの、先進事例も参考にしながら導入の可能性を検討していきたい。
小林委員	鈴木委員とともに表彰式後に会場を見学した際、工芸・グラフィックデザイン部門の優秀賞受賞者から、作品に込めた思いや制作過程でのエピソードを伺うとともに、ご家族からも作品に対する感想をお聞きすることができ、作品への理解と親近感が一層深まった。このような作者との交流の機会を設けることは、作品制作や出品への意欲向上にもつながると考えられるため、今後の実施について検討していただきたい。
社会教育課長	来場者や若い世代の関心向上につながる貴重な意見として受け止め、今後の事業運営や参加促進策の参考としたい。
教育長	その他報告 4　本長者原廃寺跡 現地見学会の開催結果について、説明を求める。
文化行政課副課長	令和 8 年 10 月 24 日に三郷地区の本長者原地内で現地見学会を開催した。当日は雨天で他のイベントとも重なったことから参加者は 65 人であったが、遺構や出土品を間近で見学できたことについて好評の声が寄せられた。見学会では、柱の基礎となる根石や土層の重なりなどを実際の発掘現

	場で見学できるようにした。現地に駐車場がないため、県立中央病院の駐車場を借用し、シャトルバスによる送迎を行った。また、出土遺物の展示や解説も実施した。現在の発掘調査は 11 月中旬頃まで継続する予定であり、調査結果を踏まえて報告会又はフォーラムの開催を検討している。
教育長	報告について意見、質問を求める。
小林委員	今回の発掘により建物の規模や全体像がより明確になった印象を受けている。市内だけでなく県内外からも注目されている遺跡であるため、今後も現地見学会や報告会など公開の機会を継続してほしい。
文化行政課副課長	見学会には市内参加者のほか、上越市を訪問中に路線バスを利用して参加した市外の人もいた。遠方からも参加があったことから、本遺跡への関心の高さを再認識した。今後も発掘調査の成果について、報告会や情報発信などを継続して実施していきたい。
教育長	その他報告 5　歴史博物館特別展「楊洲周延－サムライ、浮世絵を描くー」の開催結果と次期企画展の開催について、説明を求める。
歴史博物館長	特別展「楊洲周延－サムライ、浮世絵を描くー」は、7 月 18 日から 10 月 12 日まで前期・後期の 2 期に分けて開催した。令和 8 年度に寄贈を受けた約 1,220 点の資料の中から 150 点を選定し展示した。会期中の企画展観覧者数は 6,699 人、常設展利用者数は 13,950 人、総利用者数は 20,649 人であった。関連事業として展示解説会を 3 回開催し、延べ 69 人が参加した。 また、記念講演会をリモート形式で実施した。来館者からは、高田藩出身の浮世絵師である楊洲周延について理解が深まったことや、展示内容が分かりやすかったことなどの声が寄せられた。 併せて、次期企画展として「探検 昔の暮らし」を 11 月 21 日から翌年 3 月 14 日まで開催する予定であり、多くの学校利用を期待している。
教育長	報告について意見、質問を求める。
小林委員	展示を観覧し、高田藩士として戊辰戦争や箱館戦争に関わりながら高い芸術性を持つ作品を残した人物であることがよく分かった。上越地域にゆかりのある人物を取り上げた企画展は大変意義があり、今後も継続してほしい。
歴史博物館長	歴史博物館では地域の歴史や人物について継続的に研究を進めており、新たな知見や成果が得られた際には、今後も市民に紹介する企画展を通して市民に還元していきたい。楊洲周延に関する研究も引き続き進めていく。
大谷委員	次期企画展「探検 昔の暮らし」について、昭和初期から昭和 40 年代の暮らしは現在の子どもたちにとって実感しにくくなっている。携帯電話や生活用品の変遷など、より現代に近い題材も取り上げることで、親子で楽しめる展示にしてほしい。
歴史博物館長	本企画展は長年継続しているが、時代の変化に合わせて展示内容の見直しを進めている。ラジカセとウォークマン、電話機とスマートフォンなどを並べて展示し、電化製品や通信機器の変遷を示すことで、子どもたちにも身近に感じられる内容となるよう工夫している。今後も時代に即した展示を検討していきたい。
教育長	その他報告 6　第 16 回えちご・くびき野 100 ㎞マラソンの開催結果について、説明を求める。

スポーツ推進課長	第16回大会は10月11日に開催され、100kmの部及び50kmの部を合わせて2,404人のランナーが参加した。昨年8月の実行委員会において本大会を最後の開催とすることが決定され、その後準備を進めてきた。大会当日は実行委員をはじめ、町内会、地域団体、高校、大学、事業所など約3,000人の協力を得て運営した。沿道からも多くの市民による声援があり、大会は無事終了した。ご協力いただいたすべての方に感謝申し上げる。
教育長	報告について意見、質問を求める。
大谷委員	大会参加者は上越市内の宿泊施設だけでは収容が難しいと思われるが、ランナーは主にどの地域に宿泊しているのか。
スポーツ推進課	宿泊先の詳細な把握はしていないが、把握している範囲では妙高市や柏崎市に宿泊する参加者がいる。また、大会のスタート時刻が午前4時30分であることから、駐車場で仮眠を取りながら参加するランナーもいると聞いている。
大谷委員	大規模イベント時には上越市内の宿泊施設の収容能力や宿泊料金の上昇が課題となるため、参加者がどの地域に宿泊しているのか関心を持っていた。今後のイベント運営を考える上でも参考になると考える。

閉会宣言　　午後2時38分

令和8年10月29日

上越市教育委員会

教育長　　佐藤　理仁

会議録署名委員　　小林　晃彦